

学校関係者評価委員会報告書

一般社団法人 五常会
東北歯科技工専門学校
学校長 渡邊 奈美

一般社団法人五常会東北歯科技工専門学校は、令和3年度学校自己点検評価結果をふまえ、評価委員会を実施しました。下記にその内容を報告致します。

会議名：学校関係者評価委員会

日時：令和4年2月3日（金）19:00～20:30

会場：東北歯科技工専門学校 2階 （一部委員 ZOOM 参加）

出席者：委員4名 事務局5名

委員	大久田 秀逸（一般社団法人宮城県歯科技工士会専務）
委員	熊谷美恵子（一般社団法人宮城県歯科技工士会事務局）
委員	笠原 紳（薬師堂歯科院長・元東北大学歯学研究科）
委員	鈴木 宏明（日本平歯科医院院長）

事務局	渡邊 奈美（東北歯科技工専門学校学校長）
事務局	小松 勝（東北歯科技工専門学校副校長）
事務局	八巻 賢一（東北歯科技工専門学校教務部長）
事務局	神永 聡（東北歯科技工専門学校教務主任）
事務局	菅野 恭助（東北歯科技工専門学校元職員）

1. 開会
2. 参加委員紹介
3. 学校長挨拶
4. 資料確認
5. 職業実践専門課程の中で学校評価の役割とは再確認
6. 令和3年度シラバスについて
事務局 神永から説明
高等教育修学支援新制度を研修生も支援対象とするため研修科のシラバスが追加された。
7. 令和3年度企業連携について
事務局 神永から説明
今年度は、コロナの影響もあったが可能な限り対面での連携を図る努力を

重ねて来た。次年度は、マウスガードの実習を入れる予定で準備中

事務局神永→委員に対して保険診療（特に歯科技工：CAD/CAM 冠、磁性アタッチメント等）の保険導入により今後歯科技工教育に変化があるかとの質問があった。

委員からは、保険診療の点数改定により治療の内容は変化してきているが、特にこれに対して今の所歯科技工教育に対しての意見は出なかった。

8. 自己点検評価項目に対する評価

自己評価は、次の9項目について評価をして頂きました。

- (1) 教育理念・目標、(2) 学校運営、(3) 教育活動、(4) 教育成果
- (5) 学生支援、(6) 教育環境、(7) 学生募集、(8) 社会貢献、
- (9) 法令等の遵守、(10) 財務

以下詳細については次の通りです。

今回の全10項目で自己評価に対する平均点の多くが下がったことに対して、これまでアンケート集計を紙・記名式による記入から作業効率化をはかるため、デジタル・無記名方式で集計したためにこれまでより厳しめの平均点になったのではないかとの報告があった。しかし、学校としては全ての項目において平均点を上げる努力をする必要性を感じており、各評価項目に対しては、評価委員に事前資料を送付し、特に委員会で話し合う必要があるものに対して意見を出してもらった。

(3) 教育活動

委員からコロナ禍による教育の中で特に歯科技工教育に欠けている実際の患者さんがどのような状況で補綴装置を入れているのか？また、歯科医師の考える補綴装置の設計についてより効果的な教育が図られているのかとの質問があった。

事務局からは、やはりコロナ禍の影響で医院の見学や臨床的教育に制約があり、なかなか歯科技工本来のやりがいを教授できていなかった。また、歯科医師が考える補綴装置の設計などはコミュニケーション能力が必須であるがコロナの影響で学生同士はもとより、外部の歯科医師や企業関係者とのコミュニケーションについては平時より取れていなかったように感じている。

そんな中で患者を想定した授業を実施するために臨床における患者さんのビデオなどを視聴させながら実際に補綴装置を装着した時の様子などを教授する工夫をおこなってきた。また、コロナ禍収束後は、可能な限り歯科技工士として

のコミュニケーション能力を身に着ける企業連携に注力するようにしたい。

(4) 教育成果

委員よりオンライン授業での弊害は出ているかとの質問があった。

事務局より東北大学から派遣された講師については、多くの期間講義室でオンラインもしくは、録画の授業を受けていた。これにより明確な関連性は定かではないが例年より定期テストの成績が振るわなかったように感じるとの報告と学生の授業に対する取り組みについては、明らかに対面に比べると劣っていたように感じるとの報告があった。今後は、コロナの状況を見ながらであるが、可能な限り対面授業ができる環境整備ならびにオンラインでも教育効果が上がる授業体制の構築を模索すること。

(5) 学生支援

事務局より経済面で苦しんでいる学生支援のために高等教育修学支援給付金対象校として学費等の負担軽減をはかっている。また、学生を円滑に支援するためには保護者との綿密な連携も必要となってきたので簡便に保護者と連絡が取れるソフトを使用し、全体・個別を問わず情報交換をする仕組みを構築し運営をしている。

(7) 学生募集

事務局より昨年好調であった学生募集であるが、本年度は夏以降の募集が低迷しており委員のアイディアを仰いだ。

委員からは、コロナ禍で受動層に向けてアピールするために、進学媒体等が実施している適職ガイドなどのデジタルデータなどに歯科技工士の位置付けがとて弱く選択肢となっていないのではないかとの意見があった。

事務局→これに関しては、学校が提携する進学媒体に調査確認、積極的に歯科技工士という職業が選択肢となるような対応をしたい。

委員から新しい広報の取り組みも必要ではないかとの意見が出され、人気ユーチューバを使った歯科技工士という職業の認知活動も新しいアイディアとして出された。

事務局→受動層への歯科技工士としての魅力発信をするために学校 HP 内に SNS のバナーを設置。今後、職員一丸となって魅力的な発信を行なっていく予定。

さらに Line 公式アカウントも開設し、歯科技工に興味のある層に対して密接な情報発信を行い入学へと繋げる取り組みを開始したとの報告があった。

(8) 社会貢献

歯科界での歯科技工士不足が言われるようになってきているが学校として卒業生のサポートや復職支援などについて何か活動を行なっているのか？

事務局→これまでも本校の再就職支援制度など設置したサポートを行なってきたがここ最近はそのらを利用した相談は特に無い状況である。

歯科技工業界の急速なデジタル化に伴い、学校として校友会の記念講演会などを通してデジタル技工のセミナーなどを開催し卒業生を中心に積極的な活動を行なって来た。さらに教職員には、デジタル化に対応できるように多くの最新歯科技工に対するセミナー等に参加することで学校としてのフォロー体制を整えている。また、高価なデジタル歯科技工機器を導入出来ず苦しんでいる地元歯科技工所などに対しては、積極的に学内のデジタル歯科技工機器を運用し経営のサポートを行なっている。

委員からは、東北地区におけるデジタル歯科技工機器の導入率が 40%代と著しく低く、歯科技工士会としてデジタル歯科技工関連のセミナーを開催しても参加者が少なく、昨年の仙台市内における歯科技工所廃業ラボが 27 件にのぼることが報告され、デジタル化についていけないところが増えてきている可能性もあるとし、学校における地域の社会貢献に期待が寄せられた。

以上のような内容が委員会で審議された。事務局としては、委員の意見を参考にしながら自己評価の平均点を上げる努力を進め、より良い学校づくりを目指すように努めるとの話で委員会が終了した。